2026年3月

けんぱくものしりシート

歴史 ― №３２

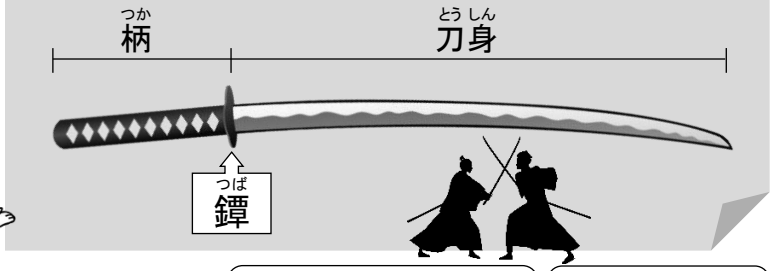
つば
鐔

ハクちゃん　ケンくん

わぁ～！　ここにあるものは何だろう？　どれも似たような大きさで、同じ場所に穴があいているね。色々なデザインがあって面白いなぁ。

これらは鐔といって、刀身と柄を区切って、手をまもるための道具です。大きさはおよそ 7～10 ㎝。金属でつくられているのよ。

解説員



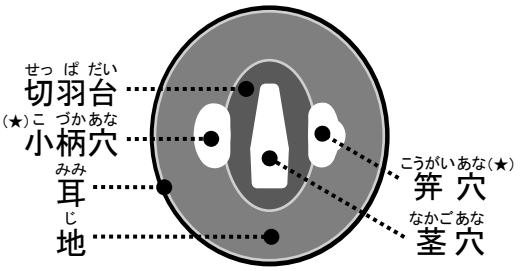
役割

- 自分の手がすべって刃を握るのを防ぐ。
- 相手の攻撃から自分の手を保護する。
- 刀全体の重さのバランスを調整する。

武器の一部にしては凝ったデザインのものが多いね。

いいところに気づきましたね。

各部名称



★刀の小道具のひとつである小柄*と笄*が収まる場所。ないものもある。

＊くわしくは、「ものしりシート歴史 №19 刀装具」を見てね！

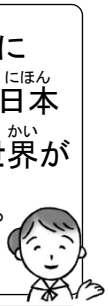
戦が多い時代には、鐔の役割そのものが重要でしたが、しだいにデザインにもこだわるようになっていったの。とくに江戸時代には、様々なデザインの芸術的な鐔がたくさんつくられたのよ。

理由

- 金属を加工する技術が発達したから。
- 平和な時代になったことで、役割よりも見た目が重視され、持ち主の個性が表現されるようになったから。

など

小さな平面の中には、高い技術と日本人の美意識の世界が広がっているの。例えばこちら。



他にはどんなものがあるのかな？

かたち：円形

梅象嵌鐔

模様：梅の木

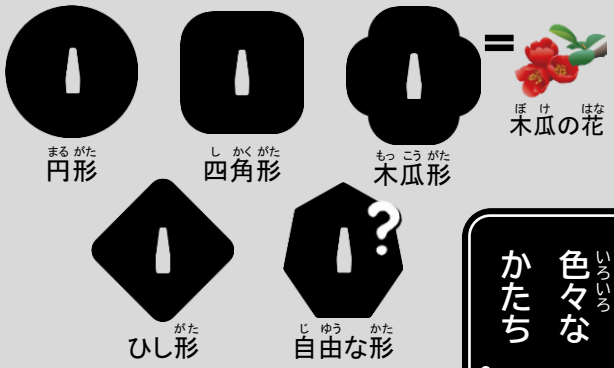
梅は縁起がよく、すがたも美しいため、日本人に愛されてきた図柄のひとつ。

▸**模様のつけ方** 梅の木のかたちを彫り、そこに金と銀をはめ込んでいる。

金属の種類：鉄

地に金槌でたたいたあとを残している。

かたちのなかま

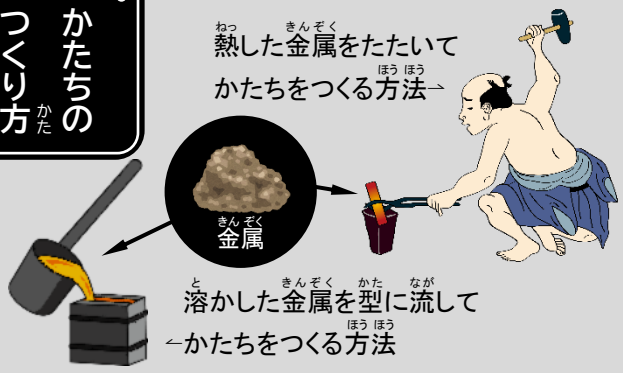


どんなものでも模様になる

色々なかたち	色々な模様
模様のつけ方	かたちのつくり方

金槌とタガネ

金槌とタガネで模様をつける



金属の種類：多くは鉄、他の金属もある

芸術的な鐔は、長い間大切にされてきたの。現在では、コレクション品や美術品としての価値も持っているのよ。

ここに展示されている鐔も個人がコレクションしたものなんだね。デザインに注目しながら見てみるとおもしろいね。

引用・参考　岩手県立博物館（1985）『鐔に見る日本の意匠』岩手県立博物館 他

●「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。

●「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。

モッちゃん

岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館 検索

HPにてバックナンバー公開中！

鐔

2026 年 3 月発行

■ 参考文献

・ 石沢正男・本田安次（編）（1976）『文化財講座　日本の無形文化財　1　工芸技術』第一法規出版株式会社

・ 伊波富彦（1969）『鐔』日本刀剣

・ 岩手県立博物館（1985）『鐔に見る日本の意匠』岩手県立博物館

・ 大阪歴史博物館（2015）『変わり兜×刀装具　戦国アバンギャルドとその昇華』株式会社青幻舎

・ 小笠原信夫（1995）『日本刀の鑑賞基礎知識 6 版』至文堂

・ 岡田譲・倉田文作・田中一松・田山方南・本間薫山・米沢嘉圃（編）（1977）『文化財講座　日本の美術　13　工芸（刀剣・武具）』第一法規出版株式会社

・ 尾崎元春・佐藤寒山（1979）『原色日本の美術　第 21 巻　甲冑と刀剣 16 版』株式会社小学館

・ 川見典久・杉本欣久（2012）『所蔵品選集　鐔』公益財団法人黒川古文化研究所